

周波数ひっ迫対策技術試験事務・平成24年度終了評価

案件名	実施期間	評価会での主なコメント	評価点
400MHz帯医療用テレメーターの周波数高度利用技術に関する検討	H23-H24	<ul style="list-style-type: none"> ・周波数有効利用のみでなく医療業務の効率化、医療ミスの撲滅につながる検討で、得られた結果から、本調査検討は大いに有益であったと考えられる。 ・IEEE802.15.6(Body Area Network)に準拠した試作機であるため、標準化は済んでいる。運用上の技術基準に成果が得られている。 ・概ね目標は達成されているが、安全性に関してもう少し多角的に評価する余地もある。 	4.0
700MHz帯を用いた移動通信技術に関する検討	H21-H24	<ul style="list-style-type: none"> ・貴重なデータが得られたようであり、また、全ての検討項目に対して適用範囲を明確にすることができたようであり、本試験事務は極めて有益であったと考える。 ・電波資源の有効活用の視点から、路路間の通信に700MHzを利用する点は再考すべきであるが、他の点に関しては有効な技術成果が得られている。 ・検討結果が700MHz帯高度道路交通システムの標準規格に反映されていることから、十分に成果が得られていると評価される。 	4.0
移動体端末間の高効率無線通信技術に関する検討	H22-H24	<ul style="list-style-type: none"> ・動体端末間通信技術の導入により交差点での歩行者事故がどの程度削減できるのかを定量的に明らかにしていくことによって、本試験事務の成果がより高まるものと期待されるが、総合的に見て有益と判断される。 ・歩車間通信システムの確立に向けた技術課題の検討としての成果目標はほぼ達成していると考えられる。 ・真に社会的に利益のあるシステムを早く提示し、社会的にアピールする必要がある。このためのアクションを起こすための基礎的データが得られたので評価できる。 	3.8
700-900MHz帯における周波数有効利用のための自営用、放送事業用及び電気通信業務用無線システムの移行先周波数における技術的条件に関する検討	H23-H24	<ul style="list-style-type: none"> ・周波数の再編に伴う移行先周波数における技術的条件の明確化は必須のことであり、本技術試験事務は極めて有益なものと考えられる。 ・IMTの700-900MHz帯での展開のため、大いに急がれる課題であったが、既存の各種システムの移行に必要な十分な成果が得られており、大いに有益であったと考えられる。 ・700-900MHz帯の再編で本技術試験事務の果たした役割は大きく、その実績は高く評価される。 	4.4
災害対策用衛星通信システムの高度化に関する調査検討	H24	<ul style="list-style-type: none"> ・短期間に目標とする技術条件が明らかにされており、大いに有益であったと考えられる。電波天文との調整は世界的にも避けて通れない課題であり、運用調整のための基準策定に関する早急な検討が望まれる。 ・総合的には、衛星に関する干渉諸条件について、他システムとの干渉条件を明確化することに成功している。技術的基準への反映は今後の課題である。 	4.3
40GHz帯を用いた移動体通信システムの周波数有効利用技術に関する検討	H22-H24	<ul style="list-style-type: none"> ・航空機、列車からブロードバンド回線を直接地上系インフラに接続することによって新たな無線サービスが展開できる可能性があり、検討成果は有益であったと評価できる。 ・得られた成果から本検討は有益であったと考えられる。しかしながら、実用化に向けては低コスト化、低消費電力化、小型化など、多くのハードルがあると思われ、今後の検討が期待される。 ・利用ニーズに対する調査等が行われており、それを踏まえた検討結果は実情に即した技術基準に反映されることと思う。全体を通して、本技術試験事務は極めて有益なものであったと考える。 	4.1